

後発医薬品の安定供給等の実現に向けた
産業構造のあり方に関する検討会 説明資料（抜粋版）

2023年8月21日

課題認識 | 棚卸資産回転期間の長期化による資金効率の悪化

先発薬製販は相対的に利益率が高く財務基盤が安定している一方、ジェネリック製販は1成分に多くの同業が参入している状態であり、利益率が低く、企業体力にも限界がある中で、棚卸資産回転期間も長い

安定供給義務の為に在庫を有する必要はあるが、長期間の在庫保有は、一層の資金効率の悪化に繋がる

薬価基準収載品目（内用薬）

参入メーカー	222社	総品目数	9,083品目
		成分種類	1,564成分
		規格種類	2,956規格

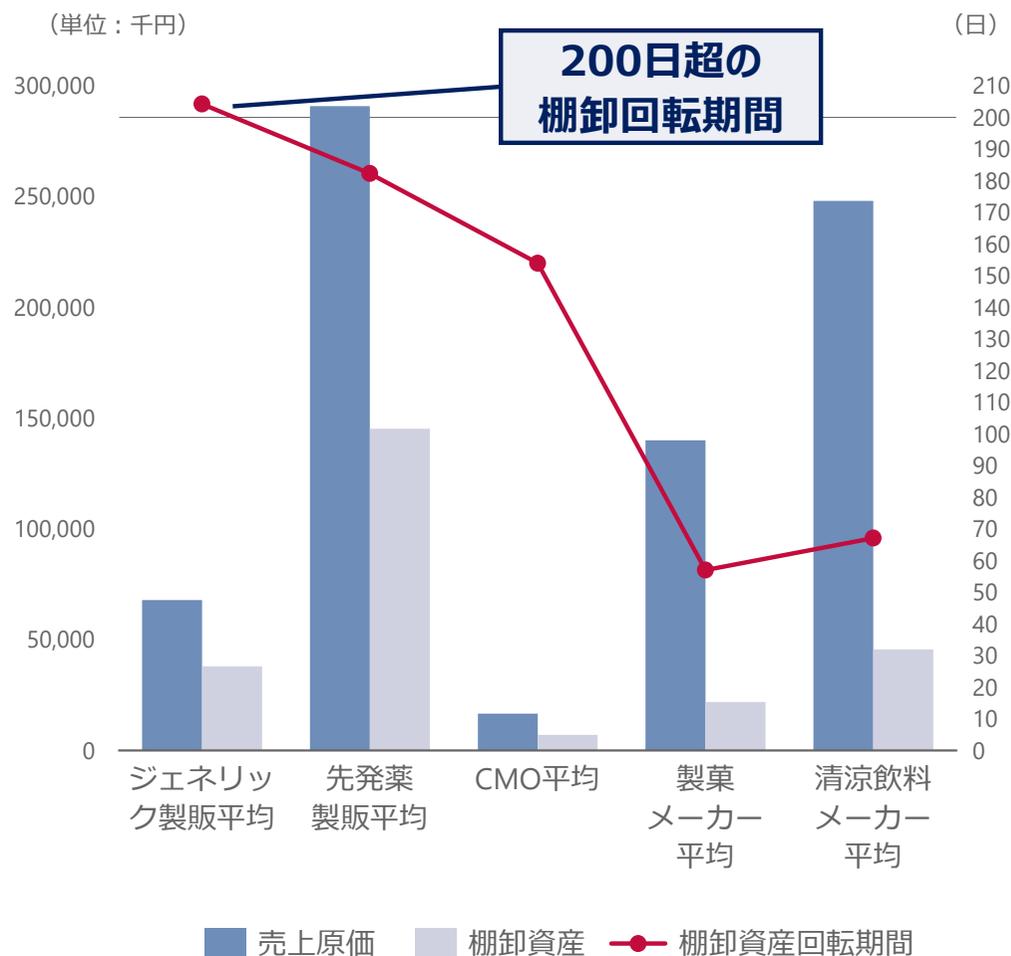
薬価基準収載品目の中の最大重複成分は？

最大重複成分(アムロジピンベシル塩酸)の品目内訳

アムロジピン ベシル塩酸	3規格 173品目	2.5mg 1錠	60品目 (内OD錠27品目)
		5mg 1錠	57品目 (内OD錠25品目)
		10mg 1錠	56品目 (内OD錠26品目)

1成分に30社近くが参入

売上原価、棚卸資産、棚卸資産回転期間の比較



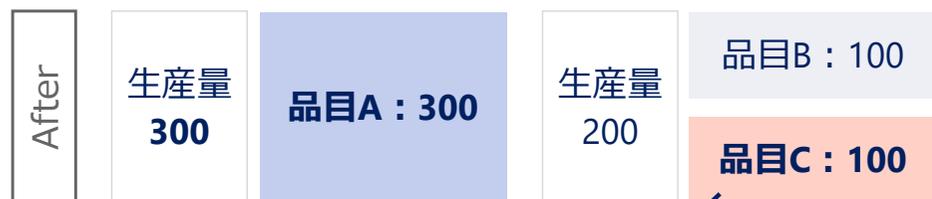
課題認識 | 生産性向上に向けた改善動機の劣後化

安定供給の早期実現のため、個社・業界全体での品目・規格統合等を通じた生産性向上への取組活性化が期待される
 しかし乍ら現状は検討開始から実現までに相当の時間・リソースを要しており、現場では取組優先順位が劣後し、生産性向上への取組マインドが醸成されにくい業界環境と認識

品目・規格統合による効果と実現に向けた課題



品目A'、品目A''をA工場の品目Aに統合



**品目・規格統合による生産効率化
 = キャパシティ創出による新たな品目Cの生産が可能**

品目・規格統合による効果

- **生産効率の上昇・品質の安定化**
 - ✓ 同一成分の品目・規格を統合することで、品目切替に伴う時間削減（洗浄・乾燥など）が可能
 - ✓ ロットスケールを拡大することで生産効率が向上
 - ✓ 品目集約により製造が均一化され品質が安定化
- **製造キャパシティの創出（新品目の製造）**
 - ✓ 生産効率の上昇により、工場キャパに余剰を作ることが可能となり、新たな品目の製造が可能

実現に向けた課題

検討から実現まで会社側は、年単位の期間を要する認識

- スケールアップ、ライン/製造所変更、原薬変更等の実現に2~3年を要するケースもあり、生産性向上への取組優先順位が劣後

**生産性向上への取組マインド
 が醸成されにくい業界環境**